

熱中症を防ごう!～昔とは違う日本の夏～

STOP! 熱中症

クールワークキャンペーン (5/1～9/30)

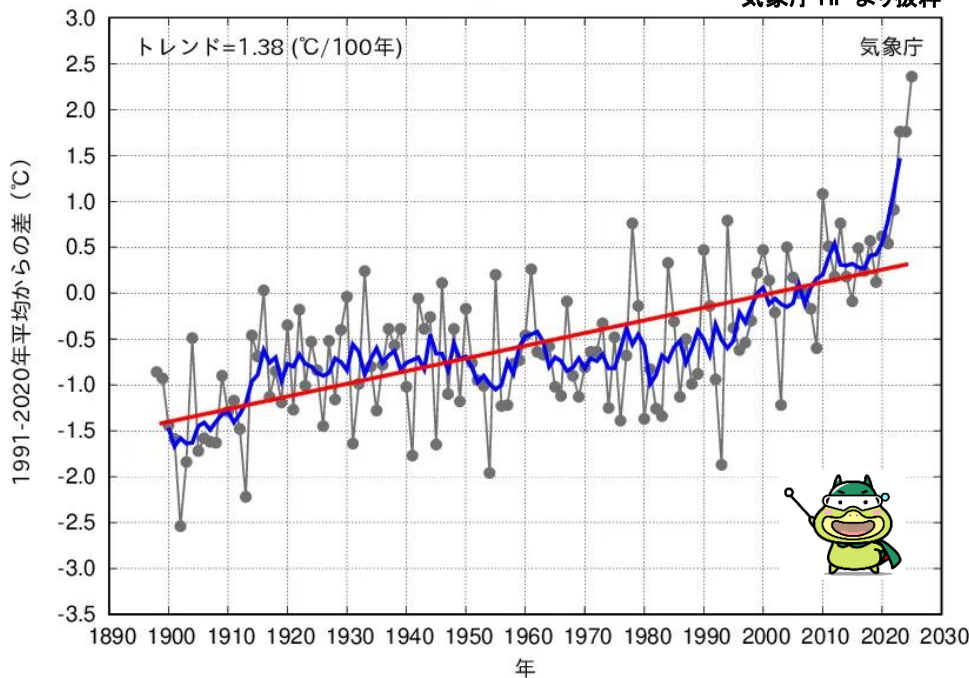
皆様こんにちは。昨日は、5月中旬だというのに30℃以上の真夏日が全国300地点を超え、35℃以上の猛暑日も観測されました。皆様がこの労基署だよりをご覧になっている6月上旬頃は、恐らく県本土も梅雨入りしており、ジメジメとした湿気の高い日もでてきていることと思います。今年も熱中症対策の季節がやって参りました。

ところで、40歳以上くらいの年代の方は、最近の夏の暑さについて、「20～30年前に比べて確実に暑くなっている」という感覚をお持ちではないでしょうか？ また、若い方も、「年々暑くなっている」という感覚をお持ちではないでしょうか？ 私の場合、40年ほど前の夏休みの涼しい朝、ラジオ体操に通った光景を覚えています。当時は、気温が20度ほどでひんやりとした朝もあり、昼間も日陰にいくと多少は涼しさを感じていた気もします。

気象庁が発表しているデータをみると、「暑くなっている」という感覚は、数値的にも間違いでないことがわかります。

図1 日本の夏平均気温偏差

気象庁 HP より抜粋



左の図1をご覧ください。

図1は、気象庁が発表している夏場(6～8月)の「平均気温偏差」で、1991年(H3)から2020年(R2)までの30年間の夏場の平均気温を基準とし、平均値とどれだけ差(°C)があるかを示すグラフです。縦軸真ん中の0のラインが30年間の平均値を示し、数値がプラス側にあれば30年間の平均より高く、マイナス側はその逆を示しています。

ご覧のとおり、2000年辺りから0を超えるプラスの年が増えはじめ、2010年以降はコンスタントに超え、2020年以降は上昇幅が非常に大きくなっています。

年ごとの具体的な数値を見てみましょう。

図2は、最近10年間の具体的な気温偏差の表です。特に3年前の令和5年以降は、30年間の平均より2度近く高くなっており、去年の夏に至っては2.36℃も高かったことがわかります。この気温上昇に呼応するように、熱中症による死傷者数も増加しています。

図2 最近10年の夏場(6～8月)の気温偏差

平成28年	+0.49℃	令和3年	+0.54℃
平成29年	+0.24℃	令和4年	+0.91℃
平成30年	+0.57℃	令和5年	+1.76℃
令和元年	+0.12℃	令和6年	+1.76℃
令和2年	+0.62℃	令和7年	+2.36℃

ご覧いただきましたとおり、感覚的だけではなく夏場の気温は現実にも高くなっており、特に最近では上昇幅が大きく、これまで以上に熱中症対策が必要な時代になっていると言えます。

